

山田 かずあき だより

大崎市鹿島台木間塚
字姥ヶ沢55-2
TEL 56-3913

2010年8月1日

2010年度 6月定例会に於いて一般質問した内容を報告致します。

◆安心して医療が受けられる体制について

<ドクターカーを運用する体制整備について>

質疑 ドクターカーを運用している病院は、救命救急センターへドクターカーで駆けつければ、重症患者が救急医と接触できるまでの時間が短縮されるだけでなく、現場での確に患者の身体状況が把握できるなど初期対応しながら、医師の立場から適切な医療機関に直接患者を紹介することが可能となる。さらに現場で救急隊や救急救命士の救護活動に対して適切な指導と助言を行うことができる。そのような観点から、本院でのドクターカーを運用する体制整備についてどのような所見を持っているか。

答弁 ドクターカーの導入については全県的な課題ということで、県の救急医療協議会でも課題として現在議論をされているというふうに向っている。消防のサイド、それから地域の医師会、それから行政、これらの役割負担というものを踏まえながら、また、今申し上げた県の議論の動向を見据えながら総合的に判断しなければならないと考えている。

<病院での差額ベット代負担について>

質疑 病院があきがないからという理由で差額ベットに入れた場合、差額ベット代は支払う必要はないのかどうか、どのような見解を持っているのかお尋ねする。

答弁 患者様の同意というのが原則であるので、同意がいただけない場合は料金徴収はできないということになっているというふうに理解している。

<鹿島台分院での診療科目耳鼻咽喉科の増設について>

質疑 鹿島台で耳鼻咽喉科を開設していた病院が、平成20年10月、惜しまれながら閉院した。鹿島台地域からの強い要望もあり、鹿島台分院に耳鼻咽喉科の増設をすべきと思うがいかがか。

答弁 耳鼻咽喉科という特殊診療のために医師の確保がより厳しい状況にあるが、地域のニーズ、スタッフの確保、経営の見通しなどを総合的に判断していかなければならない。

◆大崎市を元気にするために

<農産物等を大都市圏に売り込むビジネスモデルとしての地産地商の推進>

質疑 行政として基幹産業である農業への支援策として、大崎市の農産物等を人がたくさん住んでいる大都市圏に売り込むビジネスモデルとして地産地商の推進であります。当局としてどのような考え方で取り組むのかお伺いをする。